

松江企業の韓国法人から初荷

シャツター製造の「小松電機産業」(松江市)が韓国・ソウル市に設立した現地法人から初輸入された貨物が3日、鳥取県境港市の境港に到着した。同社はソウル近郊に初の海外生産拠点となる自社工場も開設。新製品の生産を進めることにしており、韓国との関係強

化は一層進むとしている。今回輸入したのはシャツターに使う長さ6尺のアルミ部材500本など。40フィートコンテナ1個分を、江原道東海市の東海港と結ぶ定期航路「DBSクルーズフェリー」で運んだ。今後毎月1回ほどのペースで利用する方針という。

境港でのセレモニーでは小松昭夫社長が「山陰は古くから朝鮮半島との交流が盛んな地。これを機に新商品を世界に広めたい」と述べた。「初荷」はトラックで本社工場に出発。同社は昨年5月にソウル支社を開設、新工場設立に合わせて支社を現地法人化した。